

令和 8 年度 第 1 回長崎市食育推進会議 議事録

1 日時 令和 8 年 7 月 3 日（金） 14：00～15：30

2 場所 長崎市役所 2 階多目的スペース及びオンライン

3 議題

- (1) 令和 7 年度事業実績報告及び第 4 次長崎市食育推進計画における進捗状況
- (2) 令和 8 年度事業計画と実施状況
- (3) 第 5 次長崎市食育推進計画について

4 内容

(1) 令和 7 年度事業実績報告及び第 4 次長崎市食育推進計画における進捗状況

① 事務局説明（1/4）

- ・目標項目 1 食育に関心を持っている市民の割合の増加についての進捗状況と取組状況
- ・目標項目 2 「食卓の日」の実施度の増加についての進捗状況と取組状況

② 審議

（委員）

・目標項目 2 の「食卓の日」の実施度の増加について令和 6 年から 7 年にかけて実施度が下がっているのは何か理由があるのか。

（事務局）

・10～15 年前から実施し、当時企業様と一緒に毎月 19 日に家族で食卓を囲んで旬の食材を食べようということでスタートした。その後、広く市民の方に長崎市の旬の食材を 19 日に限らず食べていただきたいということから、19 日の食卓の日に限って PR するということはここ数年していない。食卓の日そのものを積極的に PR していない状況から、19 日の食卓の日としての認知度は落ちていると考える。

③ 事務局説明（2/4）

- ・目標項目 3 朝食摂取率の増加（小学生）についての進捗状況と取組状況
- ・目標項目 4 朝食摂取率の増加（若い世代 20～39 歳）についての進捗状況と取組状況
- ・目標項目 5 共食を実施している 1 週間当たりの回数の増加

④ 審議

（委員）

・朝食摂取率増加（小中学生）のところで学校給食レシピ、朝食レシピを募集しているということだが、自分一人で作れるものなのか、栄養を補うために朝ご飯を少しでも食べれるレシピを募集しているということなのか、幅広く自分が食べたいものを想像しながら（調理）ハードルの高いものがあるのか。

（事務局）

・児童生徒が自由な発想で地元の食材を使った「こんな給食があったらいいな」というような自由な発想のもとにレシピを考案していただいている。

(委員)

・共食を実施している 1 週間あたりの回数の増加について根拠となっている調査は誰を対象者としているのか。

(事務局)

・回数の根拠となっている市民健康意識調査は毎年長崎市民 3,400 人を対象とし行っている調査で、無作為に世代ごとに対象者を抽出し、調査を実施している。この調査の設問の中に 1 週間あたり共食の回数があり、その回答をもとに算出している。

(委員)

・目標項目 4 の朝食摂取率の増加が世代別に書かれており、乳幼児健診のときにチラシを配るということだったが、乳幼児がいない家庭への周知はどのようにしているのか。

(事務局)

・現在行っている取組としては 3 歳児健診での周知が主な取り組みである。数値的に伸びがなかなか見られないが、数値を上げるために取り組んでいかなければならないと思う。

(委員)

・目標項目 3 は 1.5%、目標項目 4 は 10% 足りないが、その（足りないパーセント分の）方たちが一体どういった方たちなのかなということを想像しての質問であった。足りないパーセンテージ分をどのような方たちにアプローチすれば数値が伸びるのかということでコメントした。

(事務局)

・現計画が今年度で終了するため、次の第 5 次計画策定の際は結果の分析をしたうえで次期計画を策定する必要がある。議題 3 の内容となるため、後ほど説明する。

⑤ 事務局説明 (3/4)

・目標項目 6 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日 2 回以上食べている市民の割合の増加についての進捗状況と取組状況

・目標項目 7 生活習慣病の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合の増加についての進捗状況と取組状況

・目標項目 8 ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合の増加についての進捗状況と取組状況

・目標項目 9 食生活改善推進員の数の維持についての進捗状況と取組状況

⑥ 審議

(委員)

・食生活改善推進員の年代はどのようになっているのか。

(委員)

・琴海・三重支部の年代としては 50 代前半から 80 代までとなっている。

⑦ 事務局説明 (4/4)

- ・目標項目 10 市民が利用する「市民農園」の区画割合の増加についての進捗状況と取組状況
- ・目標項目 11 グリーンツーリズム体験プログラムの参加者数の増加についての進捗状況と取組状況
- ・目標項目 12 学校給食における地元水産物（鮮魚類）の使用割合（重量ベース）の増加についての進捗状況と取組状況
- ・目標項目 13 食育にかかる市ホームページ閲覧数の増加についての進捗状況と取組状況
- ・目標項目 14 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合の増加についての進捗状況と取組状況

⑧ 審議

（委員）

・農地利用最適化推進委員という農業委員会の一員として活動している。全国的に農家の高齢化が進んでおり、長崎は顕著に進んでいる。長崎の地形は盆地で、広大な畑は望めない立地条件の中で昔からの農家の方が頑張って農作物を作ってくれたが、高齢化で後継者がいないことが問題。遊休農地が多く、農業委員の仕事として遊休農地を一筆でも減らしていくために農業委員会でも頑張って活動しているが、作る方の立場からすると畑を持って一般の方が休日に農業をするのはハードルが高い。農業士をしていた時から訴え続けてきているが、自分の部屋のベランダや庭先に土があればいい。植木鉢やプランターできゅうりやなすびを1本ずつ植えることで家庭での食育ができる。一番手っ取り早い食育で、家庭で年齢関係なくできる。この食育推進会議で紹介しようと思って、3月末に小指くらいのじゃがいもの種を植えたら、30個くらいできた。このような事を家庭で体験していただいて、経験を積んでから私たちに声をかけていただければ畑はたくさんあるので紹介する。食育は、まずは家庭からということを作る立場として強く訴えたい。

（委員）

・食の安全保障について改正食育基本法に入ってきている。人も資源もあるということなので今後に活かしていただきたいと思う。

（委員）

・目標項目 14 番の食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合の増加について令和6年度が93.4%、令和7年度が95.4%で高いのに、目標が80%となっている。目標値をもっと上げてもいいのではないかと思います。こういった理由で80%となっているのか。

（事務局）

・確かに令和6年度、7年度で目標値を大幅に超えているので、もう少し高い水準の目標値の設定を考えている。

（委員）

・予想以上に目標を超えてきている。いいことではあるのでさらに上げていただければと思う。お魚の実施率が上がっているのは何かあるのか。

（委員）

・水産物の利用ということで特に長崎県産の魚を利用した献立作りを意識している。また、食育の

日、食卓の日の 19 日を長崎県産の鯖やごま鯖を取り入れた献立を意識している。長崎県の魚は美味しいので子供たちが自慢に思うような給食作りを心掛けていこうと思っている。

(2)議題 2 令和 8 年度事業計画と実施状況

① 事務局説明

- ・ 令和 8 年度事業計画と実施状況について
- ・ 令和 8 年度からの新規事業について

② 審議

特になし

(3)議題 3 第 5 次長崎市食育推進計画について

①事務局説明

- ・ 第 5 次長崎市食育推進計画の計画策定の考え方について

②審議

(委員)

- ・ 前の議題になるが、新規のところで魚のレシピの配付とあるが、長崎の魚に出会う場の提供のようなことは検討されているのか。

(事務局)

- ・ 国の方の法律の改定で農林水産業の体験というところが具体的に盛り込まれている状況。魚食普及という視点で生まれてからの成長段階に応じて機会をとらえた取組をしている。昨年から新たにスタートした取り組みは、リアルな体験が非常に重要ということで、漁船に実際に乗って漁業者の話を直接聞くとか、魚を準備して触れ合っていたいく魚との出会いの機会となっている。特に水産業はみんなが寝ている間に競りまで終わっていて水産の町でありながら水産に触れる機会がないので機会を増やしていきたい。小学校 5 年生は全員日吉自然の家に体験に行く。その中のメニューの一つとしてお魚料理の体験が入っている。全員が体験するわけではないが、水産のほうもコンテンツとして増やしていけるようアピールしていきたい。

(委員)

- ・ 今日の感想となるが、生協の配達に行くほとんど組合員がいらっしゃらない。子育て世帯の 8 割が就業、社会参加をされている中で食育を進めるのは難しいことだが、そういうときだからこそ食育の推進が大事だと個人的には思っている。最近、生協も食育をあまりしていないが、親子クッキング教室、地産地消、カタログの中で栄養表示は今のところ取り組んでいるので、今回の会議をきっかけにフォーマットだけが当たり前の時代になったからこそ食育を今後頑張っていきたいと思う。別の話になるが、フードドライブが食品ロスのところでは挙げられたが、子供の貧困問題とも関連している。長崎でいうと約 6 件に 1 件が相対的に貧困で子供たちが苦しんでいる世帯がある。生協では 10 年位前から子ども食堂に対して、店舗でまだ使えるが陳列期限が過ぎた食品を子ども食堂で配るとか、ひとり親家庭福祉会ながさきと連携して

組合から商品を集めて配るという活動をしている。今週も生協の県内の店舗 10 店舗でフードドライブ実施する。これは子供食堂が運営していて、特に欲しい商品、米が高いので需要が多いがリクエストのもとにあらかじめメニューを作ってそれを現場で買っていただいて、寄付していただく取り組みをしている。生協だけでなくいろんな企業がフードドライブをしているがその先には子供の貧困に繋がっているということをぜひ考えていただいて、協力していただきたいと思う。

(委員)

・資料の 5 の 1 ページ目の下に「これらの取組を推進して定着させるために、情報発信の強化や取組の見える化、PDCA サイクによる施策の見直し・改善、行動変容に向けた機運の醸成、食育推進体制の整備等の取組を推進」と記載があり、スピード感を持って対応するようなイメージだが、行政としてスピード感を持った対応が可能なのかということが素朴な疑問である。

(事務局)

・今、私たちがこの食育推進計画に基づいて事業を進め、このような形で会議を開催し、事業について委員の皆様の説明し、委員の皆様からいただいた意見をもと改善していくというのがまさに PDCA サイクルの流れだと思う。スピード感については、正直、スピード感があるかというスピード感があると言えないような事務の流れになっていると思う。ただ、それぞれの関係所属があるので、取り組んでいく事業の中で改善点については、各所属の方で改善していることもあると思う。全体的な計画を見ていく中で委員の皆様に集まっていただき関係所属も出席しての会議は頻繁には開催は難しいという実情がある。こういうやり方がいいのではないかというアドバイスがあればいただきたい。

(委員)

・先ほどの委員の話にあった身近でできるところから少しずつ始めるということが PDCA サイクルだと思う。個人的な見解としては、PDCA サイクルのイメージが循環するようなイメージを持たれる方が多いと思うが、そうではなくて、小さいところから線を描いて大きく場を広げていくというような考え方でサイクルというのをとらえていただきたいと思う。小さなところから始め、ベランダでプランターを使って育ててみるところから始めて、家族から子ども、保護者、地域に広がっていくとサイクルを活かすということが検証できるのではないかなという見解である。

(事務局)

・各事業に取り組む中で見直しをしている。ご指摘された小さいところからということも念頭に置きながら、より効果的な事業となるように取り組んでいきたいと思う。

(委員)

・先ほど水産振興課の方から話があった日吉青年の家について、うちの畑を使って去年から田植えをしている。今年は 5 月 31 日に田植えをし、10 月末に稲刈りをする予定。子どもや孫に田植えや稲刈りの体験に参加させていただいたらと思う。

(委員)

・今、他の委員の皆様がお話いただいたのは私もすごく共感するところで、例えばフードドライブだったらその先がどうなっているのか知らないままを預けている方がいるかもしれないので、

自分がしている行動が繋がっているのか見えると、何かできるのではないかというふう思った。小さなところから始めるということについて、例えば、取り組みの中に農家から学ぶプランターから始めるミニ講座みたいなのを 1 回入れて、農家さんも来ていただいて、畑はないけど庭やベランダがあるから取り組めるような取り組みがあったらいいと思った。5 年間の計画になっているが、取り組み継続もあれば廃止もあったり新規もあったりということで 5 年間の中で新陳代謝が行われていくと捉えてよいか。

(事務局)

・最初は取り組みや指標を今年度中に作る。そのあと、例えば事業がある程度達成できたといったような状況変化によって取り組み内容を途中で変えることができる。例えば 1~2 年で目標を達成したということであれば、さらに目標数値を引き上げということもあるので見直しをしていく。新しく取り組みを始める場合もあるため状況に応じて取り組み内容を変えていく必要があると思う。

以上